

第2回大崎地区における高校の在り方検討会議 会議録

日 時 平成30年11月5日（月）午後1時30分から午後3時まで
場 所 醸室 寺子屋ホール
出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

1 開 会

【司会】

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日は大変お忙しいところ、御出席をいただきありがとうございます。会議に入ります前に、マイクの使用についてお願いがございます。御発言の際には、担当者がマイクをお渡しいたしますので、お知らせ願います。

それではただいまから、「第2回大崎地区における高校の在り方検討会議」を開催いたします。初めに、開会に当たり宮城県教育庁教育次長 高橋剛彦から御挨拶を申し上げます。

2 挨 拶

【高橋教育次長】

皆様こんにちは。今日はお忙しい中、第2回大崎地区における高校の在り方検討会議に御出席を賜りまして本当にありがとうございます。前回9月になりますけれども、第1回の在り方検討会議の際には、皆様から様々な御意見をいただきました。それから皆様から御質問や宿題も頂戴したところでございますので、今日はその説明もさせていただきたいと思っております。

県立高校将来構想でございますけれども、先週の11月2日に第7回の審議会を開催いたしまして、今まで6回にわたって議論した結果を取りまとめまして、委員の皆様からは概ね御了解をいただいたところでございます。これから、最後の審議会で意見をいただいた箇所について改めて会長と調整し、答申をいただいた後、県教育委員会として責任を持って検討し、県立高校将来構想としてまとめたいと考えております。

そうした中で本会議は第2回目ということで皆様にお集まりいただきました。様々な資料等で御説明をしながら議論を深めていきたいと思っておりますけれども、忌憚のない御意見を皆様から頂戴して、これから更に熟度を上げた計画にまとめていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】

次に御出席の方を座席順で御紹介させていただきますが、恐れ入りますが前回御出席の方は省略させていただきます。

涌谷町企画財政課長の佐々木健一様です。

涌谷町教育委員会教育長の佐々木一彦様です。

美里町教育委員会教育長の大友義孝様は所要のため、本日は参事の佐藤功太郎様に御出席いただいております。

宮城県小牛田農林高等学校同窓会長の太田実様は所要のため、副会長の大場雅之様に御出席いただいております。

宮城県高等学校PTA連合会大崎支部長の五十嵐亮様です。

大崎市PTA連合会長の中川博樹様です。

遠田郡PTA連合会長の関原英明様です。

なお、美里町企画財政課長の佐野仁様、宮城県北部教育事務所の小野寺修所長は所用のため、本日は御欠席です。

ここからの会議の進行は当検討会議の開催要項に基づき、座長の高橋教育次長にお願いします。

3 報 告

(1) 第1回大崎地区における高校の在り方検討会議での意見等について

【高橋教育次長】

それでは次第のとおり、進めてまいりたいと思います。本日は項目が二つございます。まず一つ目は報告(1)「第1回大崎地区における高校の在り方検討会議での意見等」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局(西城教育企画室教育改革班長)】

事務局の西城と申します。私より資料の説明をさせていただきます。

9月12日に開催いたしました第1回の検討会議におきましては、現在策定を進めております第3期の県立高校将来構想を踏まえまして、大崎地区東部ブロックにおける高校の現状に関して、皆様から高校の状況や特徴的な取組、市や町の教育をめぐる状況などについてお話しいただいたところです。本日は、まず、報告事項(1)ということで、前回会議でいただきました皆様からの御意見等について概観してまいりたいと思います。資料1及び資料2をお手元にご準備ください。

まず資料1になりますが、いただきました御意見を大きく4つに分類してございます。まず、「1 高校の現状や取組について」のうち、「(1) 生徒の状況など高校の現状に関すること」といたしまして、4点にまとめております。一つ目、「専門学科の生徒は目的意識や学習意欲が高いが、普通科は目標が定まっていない生徒が多い」、二つ目「学習意欲やコミュニケーション能力の部分で問題を抱え、中学校でも学校生活に適応できなかった生徒も入学している」、三つ目「農業科の生徒は非農家の生徒であっても農業を学びたいという

動機で入学している」、四つ目「総合学科では1年次に職業実習を行い、それを参考に2年次に4系列から系列の選択を行う」などのお話がありました。

(2)は「学習指導や生徒指導での取組に関すること」になりますけれども、まず一つ目、「卒業後に社会に出て通用することを目標に、学び直しの授業やコミュニケーション能力を高めるような取組を行っている」、二つ目、「教員だけでは対応できない生徒や家庭の問題に対してはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの外部資源を活用している」、三つ目、「小規模校は教職員数や予算面で不利な面もあるが、全ての生徒に目が届く生徒指導ができるという利点もある」、四つ目、「経済社会の発展を担う人材育成を目標とし、キャリア教育や起業家教育に力を入れている」、五つ目、「生徒の進路の状況や町の要望から3年生の選択科目に理系、文系のほかに看護医療系、福祉系のコースを設け、町の施設の協力を得て実習も充実させていく」、来年度の入学生から一部教育課程を変えろというお話でございました。最後、『しっかりと話せる、考えて話せる』人材の育成の観点から『アクティブラーニング』を実践している。こういったことから、学校ごとに様々な取組を工夫されていることが窺えます。

次に「2 地域との関わりについて」ですが、一つ目、「高校生は地元のお祭りへの参加や町の事業に協力するなど地域との関わりが深いので、住民にとって身近な存在で小中学生の手本にもなる存在であり、地元の高校としての思い入れも深い」、高校及び高校生と地域との繋がりがしっかりできているというお話でした。二つ目、「町の要望が学校の学習内容にも反映されており、町としても町民バスの運行の面でバックアップしている」と、所在する町と高校で、WIN-WINの関係が築けているというお話でした。三つ目、「ジュニアスポーツ教室を開催している」、地域貢献に関する活動に取り組んでいるということ。それから四つ目、「地域住民との協働学習として『フラワーサービスプロジェクト』を展開している」、豊かな心を育み、その心に基づいて行動できる人材を育成するという、学校としてのミッションとおっしゃっておられましたが、地域との協働による学習についてのお話がありました。

2ページ目になります。「3 地域として望まれる学校について」のうち、「(1) 学習内容に関すること」ですけれども、一つ目、「地元の病院や介護施設と連携して、看護師や介護士など高齢社会で不足する人材の育成を行う高校が望まれる」、二つ目、「知的障害はないけれどもいわゆる発達障害のある生徒や不登校の生徒を支援する環境整備が必要である」ということ。三つ目、「少子化から再編統合はやむを得ないが、商業を基軸とした総合ビジネス高校があればよい」という御意見、それから四つ目、「普通科と職業系学科のバランスに配慮し、職業系の学びの機会を確保すべき」といったようなお話がありました。

次に、「(2) 地域性等に関すること」になりますが、一つ目、大崎地区の生徒に選ばれる魅力ある学校づくりのほか、仙台圏からの生徒が多く来ている現状を踏まえまして、「仙台方面からのアクセスの良さも考え中部地区の生徒からも選ばれる学校づくりが必要である」という御意見がございました。二つ目、「地元のイベントへの参加や市町のまちづくり

の施策に関心を持つなど、地域に関わりを持つことは高校生にとっても自分の将来を考える良いきっかけになるので、地域との関わりを持った高校を目指すべきである」、最後三つ目、「通学への影響を考慮して特色ある学校づくりをすべき」などの御意見をいただきました。

最後に「4 その他」になりますけれども、一つ目「再編はデリケートな問題であり、生徒の通学やこれまでの学校の取組も考慮した丁寧な議論が必要である」ということ、それから「改めて地元の意見を聞く機会を設けるなど、再編には丁寧な対応が求められる」、「小中学生が高校生のイメージを持てるような取組が必要である」、「少子化に伴う再編は仕方ないが、地域に与える影響を考慮すべき」、「現在、小規模な学校に入学してくる生徒の実態も考慮し、効率性だけで再編の議論を進めるべきではない」といった御意見をいただきました。

また一番下の「参考として、東部、西部、旧古川市部のブロックごとの中学校卒業生数の見込みを示してほしい」、という御意見に対しまして作成したものが資料2になります。資料2を御覧ください。

第1回検討会議におきましては、大崎地区全体の中学校卒業生数の見込みについて御説明いたしました。次期将来構想期間中の平成31年度が1,861人でした。それから平成40年度の1,614人と247人減少、割合では13.3%減少する見込みということを御説明しておりました。

資料2の一番下の※をまず御覧いただきたいのですが、前回の大崎地区全体の推計に当たりましては、地区全体の社会増減を加味して算出しておりましたけれども、社会増減につきましてはブロックごとのデータは持ち合わせていないことから、お示ししているデータは社会増減を加味していない学校基本調査結果そのままのデータとなります。

平成33年3月卒業生から平成38年3月卒業生までの推移について記載しておりますが、旧古川市ブロックでは、平成33年3月卒業ということで今の小学6年生になりますが、750人。それから平成38年3月卒業生、小学校1年生になりますけれども、698人ということで、この差が52人、6.9%減少していることとなります。それからその下の東部ブロックでは、637人から585人ということで、52人、8.2%の減少、それから西部ブロックでは、352人から342人ということで、10人、2.8%の減少となっています。ブロックごとに見ますと、強いて言えばということになりますが、東部ブロックの減少が一番大きいという状況になっております。一方で西部は絶対数が少ない状況ではありますが、増加する時期もあり、期間中は微減という状況です。資料1及び資料2の説明は以上です。

【高橋教育次長】

資料1については前回皆様から御発言いただいた中身について整理したものでございます。第1回は初回ということもありまして、出席者の方全員から御発言をいただいたとこ

ろでございます。第1回会議での意見として資料1で取りまとめた分について、最初に御意見、御質問等を伺いまして、今日初めて御出席になられた方で、この段階でお話をしたいという方がいらっしゃれば、発言していただくという形で進めていきたいと思っております。

はじめに資料1を御覧になって、御質問、御意見等ある方はいらっしゃるでしょうか。よろしいでしょうか。それではまたお話しする機会がございますので、その際にお願いたします。それでは、資料2についてですが、こちらについて確認、御質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。社会増減のところについては、この分け方で把握することが難しいということで統計データの数値となっております。よろしいでしょうか。それでは何かお気づきのことがありましたら御質問等をいただきたいと思います。

次に、報告(2)「本県での高校の再編状況」について事務局から説明をお願いします。

(2) 本県での高校の再編状況について

【事務局(西城教育企画室教育改革班長)】

資料3を御覧ください。本県では、これまで中学校卒業生数の減少への対応と高校教育の活力維持などの観点から、地域との関わりや教育の機会均等などに配慮しながら高校の再編等を進めてまいりました。ここでこれまでの本県の高校再編の状況を振り返ってみたいと思っております。

資料3は、ここ10年の間に実施した高校の再編について表に落とし込んだものです。地区ごとに見ていきたいと思っておりますが、まず、南部地区では平成22年度に男女共学化の一環として、白石高校と白石女子高校の再編を実施いたしました。再編前年の白石高校は普通科4学級、白石女子高校は普通科4学級、看護科1学級でしたが、5年一貫教育の看護の学びを継続させるとともに普通科を2学級減として、近隣に新しく校舎を建築して、現在の白石高校となりました。

同じく南部地区におきましては、今後の予定、右側の欄になりますけれども、柴田農林高校と大河原商業高校を再編して平成35年度に新たな南部地区職業教育拠点校を設置することとしております。6次産業化を軸とした地域産業振興へ貢献できる人材の育成を目指し、新設校では農業系学科、商業系学科に加えまして、公立では県内初となるデザイン系学科を新設いたします。学校の規模につきましては、現在の柴田農林高校は4学級、大河原商業高校は5学級ですが、新設校は1学年3学級減の6学級規模の高校を予定しております。

次に、中部地区ですが、平成21年度に、仙台市立の仙台商業高校と仙台女子商業高校が再編されまして、1学年8学級の仙台商業高校となっております。また、仙台女子商業高校の校地及び校舎を活用し、中等教育学校である仙台青陵中等教育学校が開設されております。

同じく中部地区では、平成22年度に、男女共学化の一環として、塩釜高校と塩釜女子

高校を再編しております。旧塩釜高校は普通科3学級、商業系学科2学級、旧塩釜女子高校は普通科5学級でしたが、再編に当たっては、商業系の学びを継続するとともに、学校規模はそのままとして、それぞれの校舎を活用し2キャンパスの高校となっております。なお、塩釜高校につきましては今年度から1学級減となり、現在は9学級規模となっております。

次に、栗原地区ですけれども、平成21年度に鶯沢工業高校を再編いたしまして、岩ヶ崎高校の鶯沢校舎として創造工学科を設置としましたが平成28年度に募集停止し、この春に閉科となっております。

次に登米地区ですが、登米地区では皆様御存知のとおり、平成27年度に規模の大きな再編を実施しています。同地区における産業人材の育成を目指し、上沼高校、米山高校、米谷工業高校、登米高校の商業科を再編し、登米総合産業高校を設置いたしました。登米総合産業高校は農業系学科、工業系学科、商業系学科、福祉系学科があり、地域パートナーシップ会議の実施など地域と協同した教育活動の展開を図っているところです。なお、平成27年度に入学した生徒が昨年度末で卒業を迎えておりまして、地元企業を中心といたしまして、就職者が約3分の2、進学者が約3分の1という状況となっております。

次に石巻地区になります。平成24年度に女川高校を募集停止しております。同校の跡地では、平成28年度より全寮制の特別支援学校である女川高等学園を開設し、生徒の特性に応じた職業教育を展開しております。

同じく石巻地区ですが、石巻市立女子高校及び女子商業高校が再編されまして、平成27年度に桜坂高校が設置されております。学校規模は再編前の6学級規模から1学級減の1学年5学級規模の高校です。

最後に、気仙沼・本吉地区ですけれども、今年4月に気仙沼高校と気仙沼西高校を再編し、新たな気仙沼高校として開設しているところです。当初は両校合わせて9学級規模、気仙沼が6、気仙沼西が3という規模でしたが、再編後は6学級規模の高校としているところです。気仙沼高校では、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの認定を受け、グローバルリーダーの育成に関する取組を進めているところです。

資料をめくっていただきまして、2ページになりますけれども、平成21年度以降の本県での公立高校の再編状況を地図に落とし込んだものになります。平成21年度以降、各地区におきまして、募集停止を含め、9つの再編を実施しており、また南部地区においては1つの再編を予定しているという状況となっております。報告事項(2)について、資料3の説明は以上になります。

【高橋教育次長】

報告(2)では本県の再編の状況について地域ごとに年度に区切って御説明申し上げましたけれども、こちらについて確認、御質問等ございますでしょうか。

男女共学化に伴って再編した状況も入っております。もちろんその前にも再編した学校

はありますけれども、21年度以降ということで御説明をしたところでございます。

【涌谷高等学校同窓会 菅原会長】

涌谷高校同窓会の菅原でございます。再編の状況を見ますと、登米地区を除けば学校が近いような感じがするのですけれども、登米の上沼高校、米山高校、米谷工業高校、登米高校と、大分校舎が離れているような感じがいたしますが、実際の生徒の動きとかですね、例えば放課後の活動などはどのようになっているのか。学校の方から何かお話などなかったでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

事務局の佐々木でございます。御指摘のとおり平成27年度の再編につきましては、距離的に見れば、それなりに離れている再編ということになるかと思えます。現状といたしましては、当時いた生徒はそのまま新しい学校に移って、27年度からこの新しい学校において引き続き学ぶという運営の仕方をしており、かつ部活動につきましても基本的にはこれまでの流れを踏まえた活動をされているといったような事情から、特に学校からは運営上支障があったという話は聞いてはいない状況でございます。

【涌谷高等学校同窓会 菅原会長】

ありがとうございました。

【高橋教育次長】

他に何かございませんでしょうか。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

松山高校教育後援会の奥山でございます。再編した学校ですけれど、再編する前にいろいろな問題や課題があったのだと思うのですけれども、その課題がどのようなものであつて、どのように解決されて、そして再編がどのようになっているのかということ。その辺のところをいくつか具体的な例を挙げてお話ししていただければ、ここでの話も参考になると思いますのでお願いいたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

この資料にあります南部地区、それから中部地区の動きにつきましては男女共学化の推進ということが再編統合のきっかけとなっているものでございます。その他の高校につきましても状況としてはほぼ似通っているかと思えますが、生徒数の減少に伴い学校運営が厳しい状況にあったことなどが一つの理由として挙げられるかと思えます。それに対応するために再編や募集停止をしたりということでございますけれども、実際に学校の規模が

小さくなったという面では、その体制づくりということで地元の方々に御意見をいただきながら準備に相当苦勞した面もあったかと思えますけれども、結果としては学校の活力が維持されたということで、生徒の学ぶ場を引き続き確保できたという面の方が大きかったのではないかと我々としては捉えているところでございます。

【高橋教育次長】

今の回答でよろしいでしょうか。大きな再編としましては、平成13年度に栗原地区の若柳、栗原農業を再編して迫桜であるとか、27年度の登米総合産業高校の再編統合がありました。実際に終わってみてどうかというお話だったと思えます。それ以外に御質問等ございますでしょうか。また気がついた段階で御質問をいただきたいと思えます。

それでは、続いて「望まれる学校像」についてでございます。これについては第1回の会議の中で各校長から様々な御説明があった中からキーワードとして取り入れた部分もございまして。今後この地域で在るべき学校像というものをお示しするものでございまして。まず御説明させていただきまして、これについてそれぞれ御意見、また御質問等をお受けしたいと思えます。

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

それでは「望まれる学校像」について見てまいりたいと思えますけれども、その前に、参考資料としてお配りしております「大崎地区の人口及び産業の状況」について見ていきたいと思えます。

大崎地区がどういった地区なのかということになりますけれども、まず人口について1ページでございます。平成27年国勢調査のデータになりますが、(1)は大崎地区全体のデータです。右から2番目になりますが、大崎地区全体の人口は205,925人、県全体で2,333,899人でありますので、大崎地区の占める割合を見ますと約8.8%となります。また、大崎地区全体の人口構成を見ますと、15歳未満の年少人口が25,377人で12.3%、15～64歳の生産年齢人口が120,834人で58.7%、65歳以上の高齢者が59,179人で28.7%という数字となっております。

各市町の人口構成は表のとおりですが、大崎市を除く4町において、全人口に占める高齢者人口の割合はいずれも30%を超えている状況になっております。詳しくは後ほど御覧になっていただきたいと思えます。

次に2ページを御覧ください。こちらは産業別の就業者数のデータです。東部ブロックに該当する市町村別の表になっております。こちら全県の数値は入っていないのですが、全県で見たときの第1次産業、2次、3次の就業者の構成比は、第1次産業に従事している方は大体4.4%という数値がでております。それから第2次産業ですと22.9%、第3次産業で70.5%というふうになっております。大崎市、涌谷町、美里町を見ます

と、1次、2次が多く3次の割合が若干少なくなっています。

3ページから4ページにつきましては、市町村内総生産額のデータとなっております。こちらでも全県の数値は入っていないのですけれども、(1)については、御覧のとおり、大崎地区の総生産額が(1)の一番左下側にありますが、全県に占める割合としては約8%となっているところです。4ページの(3)は市町ごとの産業別構成比となっておりますので後ほど御覧いただければと思います。

それでは、資料4の説明に入ります。資料4を御覧ください。望まれる学校像ということで、こちらは第1回の会議において皆様からいただいた御意見の概要について先ほど資料1を用いて御説明いたしました。御意見の中から、学校像につながるキーワードを抽出いたしました。そして学習内容に関するもの、学校としての取組に関するものの2項目に分類したところです。

まず、一番上の左側、「学習内容に関するキーワード」として三つありますが、一つ目は「職業系学科の充実」、二つ目は「不登校や発達障害を抱える生徒への支援」、三つ目は「地域の産業やニーズへの対応」ということでまとめております。

それから右側の、「学校としての取組に関するキーワード」になりますけれども、一つ目は「生徒から選ばれる魅力ある学校」を作っていくということ、二つ目「地域との関わりや連携を重視する」ということ、それから三つ目「社会的自立に必要な能力を育成する」ということ、3点にまとめております。

図の中央にあるものは「フィルター」なのですが、右下の囲みにありますとおり、「高校を取り巻く社会的状況や環境」という中学校卒業生数の減少など高校を取り巻く社会的状況や環境の変化を踏まえまして、今見てまいりましたキーワードをフィルターにかけると、下の矢印から下になりますが、基本的な方向性としては、(1)としてこれまでの大崎地区における学びの継続性、即ち「現在の学習内容や取組の継続」と(2)新たな学びの導入ということで「再編により新たなコンセプトを有する高校の設置」の二つが挙げられるかと思えます。

このうち新たなコンセプトを有する高校としてキーワードから考えられるものが資料記載のタイプ1とタイプ2です。まず、タイプ1ですが、「複数の職業系専門学科を有する高校」になります。これまでの学びの継続性を意識した学科の設置とともに、地域の産業やニーズ等を踏まえた新たな学科を設置することが考えられます。次に、タイプ2は、「学び直しや社会的自立に必要な能力の育成に主眼を置いた高校」ということになります。少人数指導ですとか学び直しに対応した教育課程の実施や外部機関、外部人材との連携による進路指導や生活指導を実施することにより、個別支援体制を充実させていくということが考えられます。

以上が、前回皆様からいただいた御意見から導き出された「望まれる学校像」になります。資料4の説明につきましては以上です。

【高橋教育次長】

今、御説明申し上げた望まれる学校像につきましては、第1回の検討会議でいただいた御意見を基にアウトラインをお示ししたものです。前回具体的にお話のあった校長先生方から御意見をいただきたいと思うのですけれども、松山高校の徳能校長、前回のお話もありましたので御質問や御意見がございましたらお願いいたします。

【松山高等学校 徳能校長】

松山高校の徳能でございます。松山高校の希望というかいろいろな話をさせていただくと松山高校は県内で三つしかない家政科を抱える学校でございます。その三つのうち一つは南の互理、そしてもう一つは真ん中あたりの名取、そして松山ということで、北の地域には松山にしか家政科を有する学校はないので、前は学校の特色などの説明の中であまり強調はしなかったのですけれども、是非、北の地域に家政科を残していただいてほしいという希望がございます。それと、こちらに書いてある新たなコンセプトというのはまさにその通りであると思うのですが、もう少し大きなところで、大崎の子供は大崎で育てるというのが大崎地区の先生方あるいはPTAの皆様が共通して持っている思いでございますので、そこを具現化するような学校が必要だと思っております。よく教育は国家百年の計と言われますけれども、目先の人口減少とかそれにただ合わせるということではなくて、きちんと100年後の大崎を見据えた再編をしていただければと思っております。以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。それでは鹿島台商業高校の三浦校長お願いいたします。

【鹿島台商業高等学校 三浦校長】

前回、私からも先ほどの資料3にもありましたが、商業高校の再編統合などかなり商業教育が厳しい状況であるとお話をしました。これを見てもお分かりいただけるかと思えます。現時点で専門商業高校は5校ございます。大河原商業高校が統合ということですので、南部地区が再編されれば商業高校4校ということになります。そういった中で何とか商業高校としてはそれを維持継続していきたいという思いを持っているところでございます。

前は商業、ビジネスを基軸にした新たな学校づくりというのですかね、ここで言う新たなコンセプトのタイプ1を私も意識しているところでございます。先ほどの松山高校さんの家政科と南郷高校さんの園芸関係とかですね、そういったものも一緒にしながらの総合ビジネス的な高校があればというイメージを持っているところでございます。それから本校の特徴的なこととしては塩竈方面から7割の生徒が通学しております。大崎東部ブロックだけに限らず、塩竈、中部地区の生徒たちの有り様は本校としては大きなところでございます。ですので、そちらの中学生の数などですね、それから塩釜高校にはビジネス科

が2クラスございますし、松島高校には観光科が新たにできました。そういった商業関係の学科もございます。それらも見通しながら是非、鹿島台の商業高校も含めてですね、東部ブロックの再編を御検討いただきたいという私の希望でございます。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に涌谷高校の樋野校長お願いいたします。

【涌谷高等学校 樋野校長】

涌谷高校の樋野でございます。本校は普通高校ということで、今、松山高校、鹿島台商業高校さんでは職業高校というお話をされましたけれども、普通高校という観点からは大崎でいうと西部に岩出山高校、古川に古川高校それから古川黎明高校、東部に涌谷高校があるのかなど。涌谷高校には涌谷町内から来る生徒も多いですし、また登米市、石巻市からも来ている生徒も多いことから、是非、バランスのとれた学科の配置をお願いしたいと思っております。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に南郷高校の佐藤校長お願いいたします。

【南郷高等学校 佐藤校長】

南郷高校の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。最近、私が校長として本校の授業や行事をつぶさに見ておりますと、非常に強く感じるがあります。それは、産業技術科の生徒たちがかなり良い成長を遂げているということです。このことは、手前味噌というよりは客観的に見てそう実感しているわけです。そういうことから、タイプ1の部分は外せないと思う一方で、このタイプ2の課題については、ここにお集まりの学校さん以外でも、すべての学校種においてこのような子供たちが増えている現状は無視できません。したがって、このタイプ2のコンセプトも十分に考慮すべきかと感じているところでございます。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に小牛田農林高校の樽野校長お願いいたします。

【小牛田農林高等学校 樽野校長】

小牛田農林高校の樽野でございます。よろしくお願いいたします。少し話が逸れてしまうのですが、本校では先月に130周年記念式典がありまして、歴代の校長先生とお話しする機会がございました。引継ぎのときにいろいろなお話は伺っているのですが、その当時、校長先生をされた先生方から生のお話を聞いて、いろいろと考えることがあったの

ですが、その中で興味深かったのが、全県の話になってしまうのですが、現在、白石高校に看護科があります。宮城県内には看護科は1校しかない。県全体で北の方には必要なのかということがかつてお話があったそうで、小牛田農林にもそのような科があったらとかいう話を伺ったりもしておりました。それと鹿島台商業の三浦先生もおっしゃっておりましたが、商業高校と名の付く高校、仙台商業が真ん中にありますが市立ですので、県立だけで考えると、一迫商業、大河原商業、石巻商業とありますが、大河原商業が今度柴田農林と一緒にあって、今後商業と名の付く学校が減って、県全体でどういうバランスでいろいろな学科を配置していくかという視点も大事なのではないかという話をかつての校長先生方から伺った次第です。ですので、本校の話とずれてしまって申し訳ないのですけども、そういう視点も必要なのかなというのが一つです。

それと、これもまた話が逸れて申し訳ないのですけども、先日、総合学科の全国大会が青森であり、青森の十和田バラ焼きというものを盛んに広めている美容師さんがいるのですけども、その方の取組が記念講演としてありました。その方は、そのバラ焼きを全国に発信することで地域に誇りを持ってほしいということで、十和田西高校だったと思いますが、高校生をいろいろなイベントに巻き込んで、地域活性化を行っているというお話でした。ですから我々の高校の在り方を検討する際にそういう視点も一つあってもよいのではと思ったところです。以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。ここまで前回の校長先生方からの御発言を踏まえた形で、もちろん全員の方の意見というわけではありませんが、エッセンスを入れた「望まれる学校像」というものを紙でお示したところでございます。では、ここで室長から。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

校長先生方、ありがとうございました。前回の御意見と今日新たに付け加わった御意見などが、条件なくすべてできれば問題はないのでしょうかけれども、この資料4でイメージしているとおり、それを全部やるということはできない環境下にあります。そういったところからフィルターをイメージした絵で今日はお示したところですが、何か特徴のある取組、あるいは今の学びを継続した取組を検討する時に、どういったことが考えられるのかというイメージ、たたき台としたところです。今日はそういった観点から皆様からいろいろな御意見をいただければと思っておりますので、これを見て、あるいはこれまでの話をお聞きになられてお感じになったことをお聞かせいただければ幸いです。

【高橋教育次長】

ではここからは御意見、御質問のある方、挙手をしていただいて、自由にお話をさせていただきたいと思いますが、どなたかいらっしゃいますか。資料1から資料4を今日はお示

しましたわけですが、御意見等ありましたらお願いしたいと思います。今日のアウトライン部分が抽象的な部分もございますので、御意見が言いにくいところもあるかもしれませんが、教育長さんから何か御意見をお伺いしたいと思うのですけれども、涌谷町の佐々木教育長をお願いします。

【涌谷町教育委員会 佐々木教育長】

佐々木でございます。質問を一つしたいのですが、先ほど鹿島台商業高校の校長先生からお話がありましたが、地区外から通学している生徒が非常に多いと。多分、鹿島台だけではないと思うのですけれども、パーセンテージとしてどの程度地区外から通学しているのかということについて、質問させていただきたいと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

こちらにつきましては前回の資料でお示ししておりました。もしお持ちの方がいらっしゃいましたら御覧いただきたいのですが、前回会議の資料3の2ページにその数値を載せておりました。例えば今お話がありました鹿島台商業高校の例をとりますと、大崎地区から通学されている割合が32.8%、それに対して大崎地区以外の出身の方は67.2%ということで、確かに鹿島台商業高校に関しては他地区から通われている例が多い状況です。確認のため5つの高校すべて申し上げます。松山高校につきましては72.9%が大崎地区からで、他の地区からは27.1%となります。続きまして涌谷高校につきましては大崎地区からは80.2%、他の地区からは19.8%となります。南郷高校につきましては大崎地区からは60.5%で、他の地区からは39.5%。最後になりますが小牛田農林高校につきましては大崎地区から86.1%、他の地区からは13.9%といった状況で、高校ごとにどちらの割合が多いかということが異なっている状況です。

【涌谷町教育委員会 佐々木教育長】

再編するということは困難な状況を抱えていて大変なことだと感じております。しかしこのような人口減少の実態を目の当たりにすると、やむなしと思います。ただ先ほど校長先生方もおっしゃっていただいておりますが、地域の思いということです。先ほど素晴らしい言葉、「大崎の子供は大崎で育てる」とありましたけれども、是非その辺を考慮、加味しながら再編の作業を進めていただきたいと思います。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。それでは大崎市の熊野教育長お願いいたします。

【大崎市教育委員会 熊野教育長】

詳しい資料を作っていただけて感謝したいと思います。各校長先生からも貴重なお話を

いただいて、何とか再編に向けての皆様の思いを表していけたら良いのだろうと思います。基本的にはこれからの子供たちにとってどのような学校が良いのかということ、これが大きな視点だと思います。しかし世の中も大分変化してきていることも事実であり、今の子供たちが成人となる時代よりもまた50年後、100年後にはどんな社会になるかという、予想もつかないような進化を遂げていると言われていています。そのやや不透明なことがこれから子供たちの将来にかかっていることを、我々考える側もやや意識を揃えて議論しないといけないという思いがあります。これからの少子高齢化に向かうときの大人社会の在り方が一体どうなっているかということも含めた、これからの高校に望む、例えば社会的な要請を整理する必要があるのかなと思いますし、そういう意味では50年後、100年後を睨んだ、例えばAIの技術の進歩に伴い、子供たちに身につけてもらう力は一体何なのかという視点も必要かと思います。

それから地域の要請、地域の中で学ぶ子供たちが一極集中かというような課題も見られ、地域の中で育って地域を大切にしていこうという要請の角度から、どんな学科やどんな学びの視点があるのかということも整理が必要ではないかと思います。あるいは現在の高校生からの要請、そして併せてこれから高校に行こうとする中学生が、高校にどう期待しどう学びを深めようと思っているかという中学生の視点、それからもちろん教育現場にある先生方の視点、ということで縦軸と横軸をクロスさせながら新たな学び、新たな学科やコース設定などについて整理ができれば、皆様と共に意識を一つにしなごらものが考えられるのではという思いでございます。以上でございます。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。それでは前回御欠席された方、県高等学校PTA連合会大崎支部の五十嵐様、御意見等何かありましたらお願いいたします。

【県高等学校PTA連合会大崎支部 五十嵐支部長】

県高等学校PTA連合会大崎支部の五十嵐と申します。7月だったと思いますが、お話しさせていただく機会をいただきまして、その時にもお話しさせていただいたのですけれども、我々保護者の間でもですね、大崎支部の中でも再編のことについて話題に出したりして意見もいただければと思って会議の中で進めているのですけれども、なかなか意見が出てきていない現状でございます。おそらく具体的に実施計画が示された時にそのような話が出てくるのではと思っているのですけれども、保護者としてあるいはOB、OGとしての思いはあると思いますが、実際子供たちはどう思っているのかなということが一番だと思ったところでございます。現在の中学生や小学生も含めてですけれども、実際に自分の将来像に向けて、途中に行く学校についてどのように思っているのかということ、そういう思いを吸い上げていただける機会があれば聞いていただければと思いました。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。大崎市PTA連合会の中川様、何かありましたらお願いいたします。

【大崎市PTA連合会 中川会長】

大崎市PTA連合会会長の中川です。今回、少子化に伴う学校の再編と聞きまして、今、大崎市、日本全国で学校再編が行われている最中でございます。今回の高校の再編というところからは話が逸れてしまうのですが、私の心情としましては、特に小学校は自分の家から歩いて通える場所に学校があるべきと考えております。歩いて通って四季を感じ、草花を見て、あるいは蛙とか蛇とかが死んでいるのを見て、生き物の生を学ぶことができます。それと集団登下校で上下関係を学ぶこともできます。そういった中で地域を愛する子供たちが育っていくのだと感じています。ただ実状を見ますと、どうしても少子化に伴って成り立たない授業がでてきていることがあります。例えば体育とか音楽、特に中学校で言いますと部活動が成り立たない、休部状態の部活があるというように、大きい学校ではあまりないですが、周辺校、例えば大崎市で言えば大きなところ以外ではそういうところがあります。そういった実状を踏まえると、再編はやむなしなのかなと考えております。

高校の再編というところに話を戻しますと、学校の在り方ということで今回会議の招集があったときに、どういった高校が望ましいのかということについて考えてみました。私の考えと今日の望まれる学校像というものでマッチしているところが結構ありました。私が思っているのは生徒から選ばれる、目標を持って高校へ進学する子供たちというのはそれなりに努力するところもあるのですが、例えば学力の問題で先生から言われるままにどこの高校へという生徒も少なからずいるのかなと考えています。そういった子供たちが自分の望む、ここへ行きたいというような学校にしていきたいということと、あとは高校での学びが次のステップにつながるような、そういった力をつけることができる学校運営というものを、保護者の立場としては望みます。

そして気になったのが「新たな学科の設置」でございます。どういった具体的なことがあるのかということで興味がありました。特に今ですとIT技術が進歩しておりまして、社会に出て働く上ではそういった技術というのが欠かせないものであると考えております。先ほど熊野教育長さんがおっしゃった、50年先を考えたときに2030年くらいには技術特異点があり、AIが進歩し、働ける場所というのがどんどん減っていくということが一部では言われています。それが実現するかといったところもあるのですが、そういった目先ではない先のところを見据えた学校づくりというものを保護者の立場からは望みたいところではあります。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。遠田郡PTA連合会の関原様お願いいたします。

【遠田郡PTA連合会 関原会長】

こんにちは、関原です。高校の再編ということで、私はPTA会長なので保護者の立場と子供、自分の娘や息子たちの立場から申し上げます。例えばA高校とB高校があり、A高校というのは少し難しい、簡単に言えばレベルの高い高校であったとします。そしてB高校は間口も広い、いろいろな生徒を扱った高校であったとします。このB高校を選ばざるを得ない子供たちもいます。学力というものはそう簡単に上がるものではございませんので、近い将来このA高校とB高校が再編で一つになった場合、これまでB高校しか選ばざるをえなかった子供たちもどうか救っていただけるようなそのような間口の広い再編であってほしいと思います。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。他にどなたか御質問か御意見ありますでしょうか。

【大崎市内小中学校長会 鈴木副会長】

大崎市内小中学校長会の副会長の古川中学校の鈴木でございます。前回、中学校においては発達障害と言えるようないろいろな対応を必要とする生徒がいて、その子供たちが高校へ行っても自信を持って学べるようにといったお話をさせていただきました。その内容がタイプ2というところに書いてあるわけなのですけれども、私たちの思いとしてはですね、今後も特別な支援が必要とする生徒は減らないと思っております。むしろ増えていくのではないかと思います。そして中学校から高校へ上がっていくわけなのですけれども、学び直しや社会的自立に必要な能力の育成に主眼を置いてというよりはですね、そういったことがどこの高校でもできるというのがむしろ望ましいことかと思っております。非常に成績が優秀なのですがコミュニケーションがなかなかとれないという子供もいます。

それから通級指導というものがあまして、最初は小学校からスタートしたのですけれども、週に1時間とか2時間とかですね、本来の教室の授業を抜けて、支援をしてくれる先生のところへ行って、その子に合った学習や生活の支援をするような学習が出てきております。それが中学校の方にも入りつつあります。それがまた時間が過ぎていくと高校でもそういったことが必要になってくるという感じがしております。新しい学校ができるという、非常にわくわくする中是非、発展というか未来を見据えた新しい仕組みを考えていくということも、織り込んでいただけたらと思っております。以上です。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。他にどなたか。よろしいでしょうか。

今日は資料1から資料4まで前回は踏まえてお示しさせていただきました、アウトライ
ン「望まれる学校像」というものをお示ししました。大崎地区にそれぞれ学校があるわけ
ですけれども、それぞれ今までの学習内容、学科も含めてですね、もちろん成果も上げて
いただいていると思いますけれども、今後も人口減少の状況、改めて地域の数字もお示し
しました。一方で学校の老朽化も進んでいる中で、選ばれる、魅力ある高校づくり、先ほ
どお話もありましたが、部活動だったりカリキュラムも選べないという、そういう状況
になってきますと、中学生から選ばれなくなってしまう。地域にとって本当に選ばれる学
校像というものをどう示していくのか、ということは極めて大事なものだと思います。

また、地域にとってどのような学科が必要かということについては、新しく再編する学
校の中で考えるのではなくて、大崎地区に今ある学校の中で、それも含めて今までやって
きたものをどう継承していくか、新しい学科が必要であれば、その学科の中で改めて考
えるということも含めて、ただ再編する学校をどうするかという議論だけでは足りないの
ではないか、という思いもあります。今日の段階ではタイプ1とタイプ2ということでお
示しをして、皆様の御意見をいただきましたので、次回は具体的な案をお示ししたいと考
えてございます。本日の予定は以上でございますので、事務局進行を返します。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

すみません終わりがけたところで。この資料4を見ていて違和感を感じていたのですね。
新たなコンセプトを有する高校のところにタイプ1とタイプ2があります。このタイプ1
の学校をつくる、タイプ2の学校をつくる、ということで見えた印象ですけれども、新しい
階層のようなものを生み出すような気がするのですね。タイプ2の方は学び直しや社会的
自立に必要な能力の育成とか、そういうことに主眼を置くということになると、1のよう
なことができないから2のようなことをやるという感じに見えてしまうのです。ですから
新しい学校を考えるならばタイプ1、タイプ2ということではなく視点1、視点2という
感じで、こういう面からもこういう面からもと、考えていくのだというふうにしてい
たきたいと。そういう意味でタイプ1、タイプ2というものは考え直してほしいと思
います。先ほどの大崎市内小中学校校長会の鈴木先生のお話を伺って、なるほどと気が
ついたので、そういうことだったのかと思います。以上です。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

ありがとうございました。今回お示しさせていただきました資料4は、第1回目の会議
の中でいろいろ聞かれましたキーワードを基に組み立てるとこのようなイメージの学校が
一つの考え方としてあるのではないかという、問題提起といいますか、提案のようなもの
でございます。今、お話しのありました視点につきましても、組み合わせの問題もあると
思いますので、例えばタイプ1の高校、タイプ2の高校をつくるのだというよりも、まず
はいただいたキーワードや考え方といったものがこの中にある程度含まれているのではな

いかということをお我々としては確認したいと思っております。ですので、今後、議論を深めていく中でそれありきということでは当然ありませんけれども、皆様から御意見をいただきながら、いろいろな形を一緒に考えさせていただければありがたいと思っております。もし、今回このような形で抜け落ちている視点がないというのであれば、次の会議の場におきまして、これをもっと具体的なイメージを持っていただけるような内容で、御相談、御意見をいただくといったような進め方ができればよいと現時点では思っているところでございます。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

こちらは資料ということになっておりますので、これが出て誰も何も言わないと結局これで固定してしまうのではないかとということで、私は確認してこうしてほしいという要望を出したところでもございましたけれども、このままではないということであれば、それで結構です。この辺のところも含めて今後も検討していただきたいと。どちらの視点も新しい学校をつくることと必要であるということ。

【高橋教育次長】

タイプ1、タイプ2の高校というようなものではなくて、あくまでも今までの議論の中のこういった視点が大事であるというものを言語化して落としてみたということです。もちろん先ほど言いましたように、要望をすべて、新しい学校はこうですというところに示せるかということには当然限界もあると思います。それから、今のままでよいのかということについて、皆様からはある程度ここは再編やむなしと、先ほども申し上げましたけれども、新しい学校というもの、生徒に選ばれる学校づくりをこの地域でやっていかないと、今までのスタイルで残ることは現実的には難しいということでもございます。資料の視点はできるだけ我々も入れていきたいと思いますが、あくまでもこういう視点も必要だという御意見もいただいてお示ししたということですから、次の段階で再編の具体的な学校がどうということよりは、大崎地区でどういうふうに視点を活かしていくかということを考えていくべきと思っております。それでは以上で、全体のまとめの話もさせていただきましたので事務局にお返しします。

5 その他

【司会】

ありがとうございました。次第「5 その他」ですが、何かございますでしょうか。それでは、事務局からですが、次回の会議は、12月下旬の開催を予定しております。詳細な日程につきましては、皆様に日程を照会した上で事務局から御連絡いたしますのでよろしくお願いたします。

6 閉 会

【司会】

以上をもちまして「第2回大崎地区における高校の在り方検討会議」を閉会いたします。
どうもありがとうございました。